



独立行政法人  国立病院機構
National Hospital Organization

姫路医療センター



姫路医療センターの立地



姫路駅から
1.6km 徒歩20分



「適度に都会」で「適度に田舎」

神戸まで電車で40分
新幹線「のぞみ」は停車します。



病院概要

病床数:411床

外来:650人/日

標榜科:27診療科

専門外来:

内科(呼吸器・気管支喘息・消化器・
心臓・糖尿病内分泌・血液・リウマチ)

外科(消化器・乳腺)

整形外科(人工関節)

形成外科(フットケア外来)

主な治療実績

手術件数 4400件/年

2019年- da Vinci導入

救急車受け入れ 2100件/年

ドクターカー稼働

外来化学療法 4000件/年

2019年- 緩和ケア病棟稼働



内科専門医取得を 病院・地域全体でバックアップします。

内科専門医プログラム関連病院

各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
姫路医療センター	○	○	○	○	○	△	○	○	△	○	○	○	○
姫路赤十字病院	○	○	○	×	×	○	○	○	×	△	○	○	○
姫路聖マリア病院	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○
製鉄記念広畑病院	○	○	△	△	○	△	△	△	△	△	△	△	○
ツカザキ病院	○	○	○	△	○	△	○	△	○	○	○	△	○
県立姫路循環器病センター	△	×	○	×	○	×	×	×	○	×	×	×	○
姫路中央病院	○	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	○
井野病院	○	○	△	○	○	○	△	△	○	△	△	○	△
厚生病院	○	○	△	△	○	△	○	×	×	×	×	○	×
神戸市立医療センター 中央市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

各診療科および連携施設と協力して、症例経験の不足する疾患群を優先的に研修できるように配慮しています。

姫路医療センター 呼吸器内科

呼吸器内科の現状(2022/1月現在)

- 医師数：常勤 16名、非常勤 2名
- 呼吸器学会専門医/指導医 14名/8名
- 病床数：100～140床
- 女医さんも3名在籍しています
(子育て中のママ女医さんが2名)。

※病棟で聞きたいことがあったら、その辺に呼吸器内科医がいて、すぐに教えてもらえる環境です。

呼吸器内科での研修内容

- 指導体制
専修医は上級医の指導のもとに入院患者を受け持つ。
- 患者受け持ち
平均受け持ち患者数は10名前後。
- 毎週月・水・金の午後に、気管支鏡検査。
- 火・木午後のカンファレンスで、入院患者検討、気管支鏡などの検査計画、検査結果の検討。
- 当直業務 一般内科当直。月2回程度。
- 外来
原則として受け持ち退院患者を外来診察する。
- 学会活動
最低年2回学会発表する。年1編論文を学会誌に投稿する。

呼吸器内科の強み

- 症例数が非常に多く(肺癌は全国3位、間質性肺炎は全国8位)、
専門医・指導医も多数在籍。
- 気管支鏡(EBUS-TBNAやEBUS-GS含め)の検査数が多く、クライオ生検・
気管支充填術・局所麻酔下胸腔鏡・気管支サーモプラスチックといった
最新の手技も積極的に行っています。
- 呼吸器外科・放射線科(治療・画像診断とも)・緩和ケア科との連携もよく、
最新の知見を教えてもらえますし、診断/治療で困った時に気軽に相談に
乗ってもらえます。
- 国内学会のみならず、国際学会への発表や論文投稿も行っています。
- 卒業大学は様々で、「大学閥」はありません。

呼吸器内科で重視していること

- **よい医療は、技術・知識・経験的な面はもちろんのこと、患者と医療スタッフとの良好な信頼関係の上にのみ成立することを肝に銘じ、「いかに患者を含め、周囲の人たちと良好な人間関係を構築するか」、研修の場で学ぶことを重視しています。**
- **豊富に症例がありますので、学会発表や論文発表の機会を大事にしてほしいと思います(旅費・諸経費の補助もあります)。**

※もし興味がありましたら、姫路市/病院周囲/科内の雰囲気の確認をかねて、ぜひ見学にお越しください！

姫路医療センター消化器内科は

仕事が大好きなガッツのある専攻医を募集します！

ぜひ、当院ホームページ「消化器内科スタッフ募集」を覗いてみてください。

消化器内科の豊富な症例数

姫路を中心とする播磨姫路医療圏：人口83万人



一地方県と同じ規模の医療圏ですが、大学病院・市民病院が存在しません。

例)鳥取県人口 56万人、徳島県 79万人、福井県 80万人

当院はこのような地域における最終拠点病院であり、様々な症例が多数集まってきます。

急性腹症からがん診療、肝疾患、IBDなど、消化器疾患全般を多数経験できます。

必要なのは意欲だけ。出身大学や経歴を問いません。

京都大学の関連病院ですが、関東から九州までいろいろな大学出身のスタッフ10名で診療しています。

4月には2名の専攻医を迎えます。

消化器内科 診療概要(年間)

上部内視鏡検査	4000件
下部内視鏡検査	2000件
ESD	150件
ERCP	300件
EUS-FNA	30件
バルーン内視鏡	10件

入院担当は指導医とペアになって研修を開始します。

(処置)

合格が出るまで指導医がついて丁寧に指導します。

合格した手技は担当医ならスターターを任せられどんどん経験が積めます。

飲み込みの早い専攻医ではESDを始めるものもいます。

しっかり働いたら、しっかり休む！

救急の多い消化器は拘束時間も増えます。なのでメリハリのきいた診療を心がけています。

- 当直明けの午後は休暇を取っています。
- 9日間と5日間の2回の長期休暇を1年間に取得可能。
- 年末年始・ゴールデンウィークは完全当番制。

臨床研究もともに頑張りましょう

**学会で積極的に発表し経験を積むことができます。
スライドの作り方、プレゼンテーションの指導をしっかり行
います。**

**発表の場は国内にとどまりません。これまで米国・欧州・
アジアの国際学会で演題が採択され発表しました。
若手にもチャンスはあります。**

研修終了後の進路選択

進路の選択は当人の自由ですが、当院では以下のオプションが可能です。
将来の心配は全くありません。

1. 当院常勤医に昇格
2. 京都大学消化器内科に入局し京阪神に展開する関連病院に勤務
3. 京都大学大学院に進学(基本は常勤スタッフとして勤務後)

とてもフレンドリーな職場環境

若手のDrたちが忙しくも和気あいあいと働いている様子は見学に来ていただければすぐに分かると思います。

実際、これまでの消化器内科専攻医は全員残留を希望して常勤医になっています。その後巣立って各地で活躍しています。

当科に少しでも興味が湧いたなら、いつでも見学に来てください。

みなさんと一緒に仕事ができるのを楽しみにしています！

